

平成 26 年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立本庄小学校

4月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。これは、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、児童生徒の学力や学習の状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、改善を図ることが目的です。学校においては、児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てることやこれらの取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善を確立することを目的としているものです。

結果を基に、本校児童の学力の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

■ 調査期日

平成 26 年 4 月 22 日（火）

■ 調査の対象学年

小学校 6 年生児童

■ 調査の内容

(1) 教科に関する調査

主として「知識」に関する問題 [国語 A, 算数 A]	主として「活用」に関する問題 [国語 B, 算数 B]
<ul style="list-style-type: none">・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容・実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など	<ul style="list-style-type: none">・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力などにかかわる内容・様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などに関わる内容

(2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲, 学習方法, 学習環境, 生活の諸側面等に関する調査	指導方法に関する取り組みや人的・物的な教育条件の整備の状況, 児童生徒の体力・運動能力の全体的な状況等に関する調査

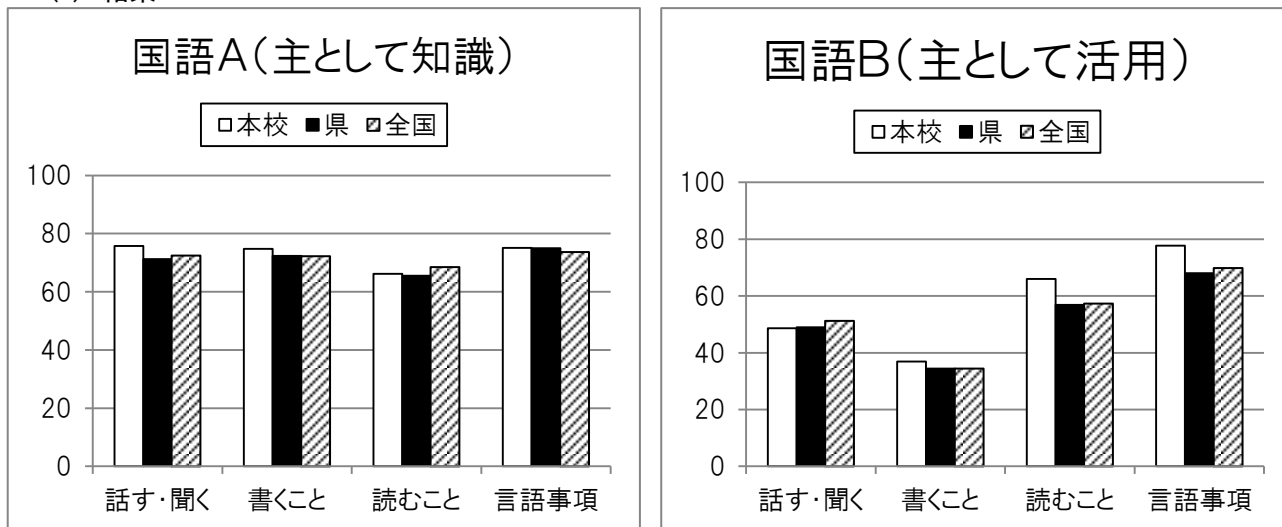
■ 調査結果及び考察について

全国学力・学習状況調査は小学 6 年生（中学 3 年生）と限られた学年が対象であり、教科は国語と算数（数学）に限られています。さらに、出題は各教科の限られた分野（問題）です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり「学校教育活動の一側面」であることをご了解の上、ご覧ください。

■ 調査結果及び考察

1 国語

(1) 結果



多くの領域において、県平均・全国平均を上回っている。しかし、国語Aでは「読む」領域に、国語Bでは「話す・聞く」領域に課題が見られる。記述式の問題では無答率が高くなる傾向も強く、今後の重点課題のひとつである。

(2) 課題

話す・聞く

- ・ 目的に応じて、話し合いの観点を整理する力や立場を明確にし、質問や意見を述べる力に課題が見られた。情報を整理しながら聞き、自分なりの考えを主張できる力を育む必要がある。

書 く

- ・ 複数の事柄を並列の関係で書く（「～たり、…たり」）力や、発言に対する質問や立場を明確にして意見を書く力に課題が見られた。無答率も高いことから、何とか書こうとする姿勢を育むとともに、目的や意図を明確にし、条件を満たしながら書く力を育む必要がある。

読 む

- ・ 新聞の投書を読み、表現の仕方を捉える力に課題が見られた。共通点や差異点、主張点などを意識し、比較しながら読み取る力を育む必要がある。また、新聞を身近な情報源のひとつと感じられるような環境設定も必要があると考えられる。

言語事項

- ・ 漢字の読みや故事成語の意味などに課題が見られた。言語についての知識・理解・技能の力を継続的・系統的に育む必要がある。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

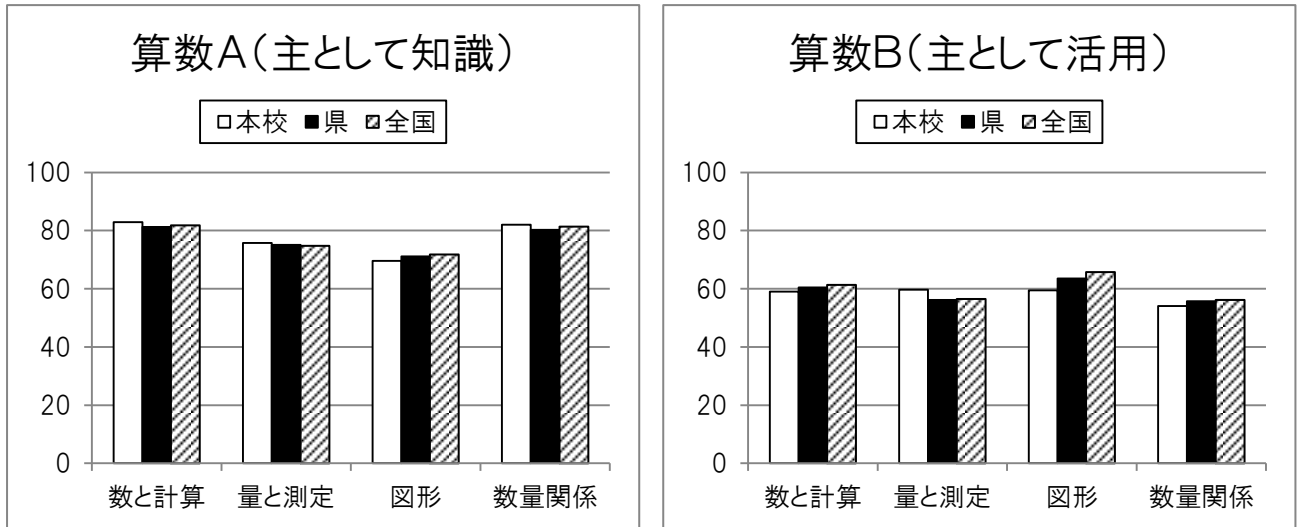
本に親しむ習慣（朝の読書）を身に付けさせるとともに、語彙を広げる（パワーアップタイム）取り組みを充実させます。また、教育活動全体を通して、立場や目的、意図を明確にした言語活動を充実させていきます。

【ご家庭では】

いつも、「音読・読書」のご協力ありがとうございます。今後も、子どもたちの語彙力を高め知識の幅を広げる取り組みにご協力ください。また、子どもたちとの会話を楽しむ中で、共感したり、根拠を尋ねたりしながら、温かい心の交流が育まれることを願っています。

2 算 数

(1) 結果



算数Aでは、県平均を上回っている領域が多い。しかし、算数Bに関しては全国平均を下回る領域が目立ち、「数と計算」「図形」「数量関係」などに課題が見られる。特に、数学的な考え方を問われる問題では無答率が高く、情報を整理し、自分なりの考えを筋道立てて述べる力を育む必要がある。

(2) 課題

数と計算

- ・空位のある乗法の計算，商が小数になる除法の計算に課題が見られた。また，2量を相対的に捉え，その関係を表す図を選択する問題につまずく子どもも多かった。今後も，基礎的・基本的な計算力を育む取り組みを継続する必要がある。

量と測定

- ・単位量あたりの大きさを求める力に課題が見られた。1㎡あたりの人数を求める式という条件を満たさないために誤答となった子どもも多く，題意や条件をしっかりと読み取って問題に取り組む力を育む必要がある。

図形

- ・円周の長さを，直径の長さを用いて求める問題や示された条件をもとに，残った平面に4つの長方形を敷き詰める問題につまずく子どもが多かった。量と測定同様，条件を満たさないために誤答となった子どもが多く，題意や条件をとらえて課題解決に臨む力を育む必要がある。

数量関係

- ・与えられた情報から，その周期を見だし問題解決を図る問題や，小数倍の長さの求め方を記述する問題につまずく子どもが多かった。示された情報を整理し，筋道立てて考え，自分の考えを記述する力を育む必要がある。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

基礎的な計算力を育む取り組みや学びの定着をはかる取り組み（パワーアップタイム）を充実させます。また，算数の学習においては，題意をとらえる場面や互いの考えを練り合う言語活動の充実を図っていきます。さらには，少人数・TT指導も効果的に組み入れ，子どもたちの学力向上を目指していきます。

【ご家庭では】

日頃より，子どもたちの学習に関心をもっていただき，ありがとうございます。今後もたくさんの励ましや称賛の言葉掛けをお願いします。また，生活場面でも算数を話題にしてみたり，子どもたちの考えの根拠を尋ねたりしていただくなど，算数の日常化を図っていただけると幸いです。

3 生活習慣や学習習慣に関する調査

(1) 結果

《生活習慣について》

調査項目	本校 (%)	全国平均 (%)
朝食を毎日食べている	98.6	86.0
毎日、同じくらいの時刻に寝ている	85.2	79.2
毎日、同じくらいの時刻に起きている	94.6	90.9
平日2時間以上テレビを見る	59.5	61.3
平日1時間以上ゲームをする(パソコン・携帯型・スマホ型も含む)	36.5	54.7
平日読書を30分以上している	55.4	38.2
家の人(兄弟姉妹を除く)と学校での出来事について話をしている	81.1	80.4
家の人(兄弟姉妹を除く)と学校での出来事について話をしない	5.4	3.9

ご家庭の協力もあり、基本的な生活リズム(朝食・起床・就寝)はおおむね身に付いているようである。学校での様子を見ても、元気に健康的な学校生活をおくることができている。テレビやゲームの時間については、どちらも全国平均よりもよい結果ではあるが、個別に見ていくと長時間することが習慣化しつつある子どもも見受けられる。発達段階の特徴でもあるが、家庭での会話が少なくなっている子どもも見受けられる。

《家庭学習の様子》

調査項目	本校 (%)	全国平均 (%)
学校の授業時間以外に、平日2時間以上勉強している	32.5	25.8
学校の授業時間以外に、平日1～2時間勉強している	39.2	36.2
学校の授業時間以外に、平日0～1時間勉強している	24.3	34.7
家で、学校の授業の復習をしている	59.4	54.0
家で、自分で計画を立てて勉強をしている	67.5	61.0
新聞をほぼ毎日読んでいる	18.9	10.0
テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見る	87.8	84.7

家庭学習の様子としては、計画的に時間を決めて取り組んでいる子どもたちが多く見られる。中でも、学習内容について復習している子どもの割合が高く、自学奨励の効果を感じられる。しかし、家庭学習の時間を十分に確保できていない子ども(本校:24.3%)もいるため、個別の働きかけをしていく必要がある。

(2) 改善に向けての取り組み

【学校では】

基本的に、毎日宿題を出します。自学(自主学習)については、中・高学年を中心に取り組みを充実させていきます。その際、表彰をしたり、放送で紹介したりしながら、学校全体に自学の取り組みを広げていきます。また、朝の読書も継続して取り組みます。朝の時間もメディアセンターを利用できるようにするなど、環境も整えていきます。

【ご家庭では】

日頃より、子どもたちの生活習慣に目を向けて下さっていることに感謝申し上げます。今後も、「早寝・早起き・朝ご飯」のサイクルを整えていただけると嬉しいです。家庭学習につきましては計画的に継続的に取り組む中で、量や質の向上を目指していくことも大切です。子どもたちの取り組みを見守っていただくとともに、「褒め」と「励まし」の言葉掛けを意識していただけると嬉しいです。どうぞ、よろしく願いいたします。